

ONAIR [オン・エア]

放送大学
新時代

2018
July

No. 126

特集

BS放送マルチチャンネル化へ 進化する放送大学

[來生新 学長] P. 01

まなびーとめぐる、全国学習センター学生レポート
[栃木学習センター / 佐賀学習センター] P. 03

研究室だより [谷口義明 教授] P. 05

2017年度学位記授与式 P. 07

学習センターサークル紹介
[千葉学習センター 合唱サークル] P. 09

就任教員のごあいさつ、ご紹介 P. 10



特集

來生 新 学長 | Special Interview

BS放送マルチチャンネル化へ 進化する放送大学

2018年10月、いよいよBS常時マルチチャンネル放送がスタートします。
マルチチャンネル化を契機に、大学はどう変わっていくのか。
來生新(きすぎしん)学長にじっくりとお聞きしました。

より良く生きる力 21世紀の新しい教養教育

人生100年時代といわれる今。私たちは、絶えず変化する環境に柔軟に対応しながら、より良い自分に変わり続けていくことを楽しむ。そういう生き方が、求められているのではないのでしょうか。

そのためには、何歳になっても、自分自身を固定化しないで、自分にはまだ変わりうる余地があるんだと、自らの未知の部分にチャレンジしていく。そこに、生涯にわたって学び続けよう——という、柔軟な生き方が生まれてきます。それは、21世紀の世界において、最先端の美しい生き方だと私は思うのです。

放送大学は、まさにそのような生き方のお手伝いをしようと、教養教育を行っている大学です。では、放送大学が提唱する「教養教育」とは何でしょうか。

30数年前の設立時、私たちは、どちら

かというと古典的な教養教育に力点を置いてスタートしました。あらゆる能力を磨く基礎となる知識、人間としての奥深さを形成していくための教養を学ぶことですね。

しかし、設立から30数年が経ち、私たちを取り巻く日本の社会情勢は大きく変わりました。経済の低成長と表裏一体となって長寿・高齢化は進展。放送大学の学生も、30代、40代、50代を中心に多世代にわたり、学ぶ目的もキャリアもますます多種多様になっています。

しかも今や職業人として求められるスキルの変化は急激で、また一方で、リタイアした人だけでなく、職につかなくても、家庭や地域でさまざまな活動に参画されている方が増えている。このように変化の早い社会では、つねに「学び直し」が必要となり、社会人の「リカレント教育(学び直し)」へのニーズが高まっているのも、時代の必然と言えましょう。

そんな多様で変化の激しい時代、人生100

年時代に、放送大学が提供すべき「教養教育」とは何なのか——。まさに今、時代のニーズに合わせて中身を変えていかなくてはならない、大きな転換期を迎えています。

そして私たちは、古典的教養だけではなく、職業的能力、ないしは実践的能力を高める教養も含めた、新しい意味での教養教育を提供していく。それが、放送大学としての使命なのではないかと考えました。古典的教養と実践的教養とを融合させたもの、それが放送大学ならではの「21世紀の新しい教養」なのです。

それはまさしく、人生のそれぞれの段階で、人それぞれが直面する問題を、より良く解決する能力を高めるもの。より良く生きる力を鍛えるものなのです。

BS常時マルチチャンネル放送 いよいよ10月スタート

この「21世紀の新しい教養」を、新た

なカタチで提供していくのが、この秋スタートする「BS常時マルチチャンネル放送」です。

従来の単位取得を前提とした大学の授業番組を提供するチャンネル「BS232ch」に加え、大学教育の形式にとらわれない自由なカタチで、多様な学び直しの機会を提供する新チャンネル「BS231ch」が登場します。

では、今なぜマルチチャンネル化なのでしょう。きっかけは、やはり変化が激しい現代の、社会的ニーズに応えるためでした。

そもそも放送大学は、今まで大学教育というカタチを通じて生涯教育を提供してきました。形式面でも内容面でも、すべて厳格な大学設置基準に定められた、その枠組の中で放送教育を行ってきたのです。例えば、授業形式は、45分×15回で1回完結。15回すべてを受講しないと、単位認定試験が受けられず、単位取得も認められないという仕組みです。

しかし、先ほども述べたように、今多くのニーズがある、職業能力や、資格試験、認定資格更新などに対する勉強は、45分×15回では多すぎる。45分×3回くらいで充分だというケースが多くあります。ところが、厳格な大学設置基準の枠内では、3回だけの授業のニーズには対応できません。

つまり、これらの社会的ニーズに応えるためには、大学教育の枠組みを離れた「自由な教育のカタチ」が必要になります。こ

実践的な知の基礎、職業的能力の向上に資する番組により「学び直し」のきっかけにつながる生涯学習支援番組(仮称)などを放送。

学び直しの機会を提供する番組

231ch

多様な生涯学習

232ch

単位取得を前提とした番組

これまでと同様に、放送大学に在籍する学生の授業科目の単位取得を目的に、単位認定試験に向けて計画的に授業番組を放送。

■ 10月からの放送

れが、新しいチャンネルを作る、決定的な理由となりました。

幸い、学校教育法第107条には「大学においては、公開講座の施設を設けることができる」とあります。ですから、エクステンションセンター(各種講座などを提供する大学の附属機関)のような存在として、もう1チャンネルを設ければ、生涯教育の多様な需要に応えることができるのです。

こうして、実現したBSマルチチャンネル放送。マルチチャンネル化したことで、「大学の授業番組」と「自由な学び直し×公開講座」、この「2つの軸」をもつ放送大学の特色を、より明確に打ち出すことができたのではないのでしょうか。この新たな試みによって、今まで以上に日本社会の生涯教育に貢献できるのではと期待しています。

放送大学という ブランドイメージを発信していく

「BS231ch」は、今まさに、新しい番組を制作しているところです。新しい討論番組や、多彩な講師陣によるスペシャル講演など、1回の視聴でも楽しめる番組も

続々と登場します。また、大学教育ほど肩肘を張らないで、気楽に見ていただけるコンテンツも多彩に提供していきますので、ぜひご期待ください。



BS231chでは『クロス討論』や『放送大学スペシャル講演』などの番組を企画中。

この秋、いよいよ始まる「放送大学のマルチチャンネル時代」。私たち教職員も全員で足並みをそろえて、この新時代の魅力を社会にアピールしていければと思います。

そして、生涯教育を通じて、多くの人々のより良い生き方に貢献する大学——。そんな大学のブランドイメージが発信され、広く社会に浸透していければ、本当にありがたいことです。

放送大学の番組は、一般の方も視聴できますから。より良い人生を過ごしたいと思っていっぱいの方は、ぜひ積極的に見ていただきたいです。

己の知らないことを知ることによって、自分の能力を高めていく。その未知の領域へのチャレンジが、きっと人生の問題解決能力を高めることになるはずです。

人生100年時代、皆さまのそんなより良い人生にお役に立てるよう、放送大学はこれからも日々努力してまいります。



まなぴーとめぐる 全国学習センター 学生レポート

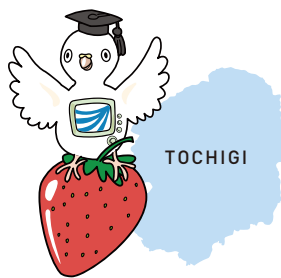
放送大学のイメージキャラクター
まなぴーが全国の
学習センターにお邪魔し、
学生生活の一部を
見せてもらいました。



栃木学習センター 学生リポーター 大島 富子さん

学生時代になかなか勉強をしたくないと思い、定年退職の半年前に入学しました。
新たに学ぶことによって、これからの人生を豊かにしたいと思っています。

栃木学習センター



01 緑の多い栃木学習センター

02



面接授業

04



放送大学栃木学習センター友の会



03 学生研修旅行(偕楽園)

05



"まち"を研究する会によるまちづくり提案発表

01 | 栃木学習センターは、宇都宮大学峰キャンパスにあります。キャンパス内は緑がとても多く、勉強の合間に散策をして楽しんでいます。

02 | 栃木学習センターの面接授業の中で特に人気があるのが、奥日光で開講される1泊2日の野外実習です。実際に登山道を歩いて現

地踏査を行います。

03 | 昨年は茨城県の陶芸美術館、偕楽園、弘道館などを訪れました。

04 | 私が副代表をしている「放送大学栃木学習センター友の会」は、入学おめでとうカフェ、所長とランチ、夕方カフェ、文学・芸術に関する

勉強会など、学生の交流や親睦を深めるためのイベントを実施しています。

05 | ムラとはマチとは、そして豊かな暮らしとは？サークル「まち研」は、栃木学習センターの所在地宇都宮地域をメインとして地元の方々と共に歩き、考え、提案する活動を続けています。



滝澤 登所長

古川 容子さん

放送大学イメージキャラクター
まなびー

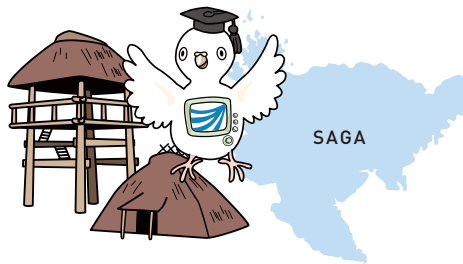


まなびーは2008年9月に生まれた放送大学のイメージキャラクターです。「あなた」の心に学びを届ける伝書鳩をイメージしています。命名の由来は、放送大学で学び、未来への夢を広げる鳩。「ピー」は鳥の鳴き声、平和のピース。キャラクターデザインは、映画『この世界の片隅に』の原作者である漫画家のこのの史代氏(2001年放送大学卒業)です。

佐賀学習センター 学生リポーター 古川 容子さん

今年3月に念願がなって卒業できたのですが、放送大学と別れるのが辛くて(?)再入学しました。毎週佐賀学習センターに通い、今後も資格取得等、新たな夢に向かってがんばりたいと思います。

佐賀学習センター



01

佐賀学習センター



03

英語サークル



05

明治維新150年記念イベント



02

吉野ヶ里歴史公園での面接授業



04

開設20周年記念公開講演会



01 | 佐賀学習センターは、佐賀駅から徒歩10分の佐賀県立生涯学習センター(アバンセ)4階にあり、学生は建物前の広い無料駐車場にマイカーで乗りつけできるので便利です。
02 | 「国営吉野ヶ里歴史公園」の遺跡を巡りながら弥生時代を学ぶ授業は、全国各地から

受講者が訪れる人気の講座です。
03 | 毎月第3土曜日に勉強会を開催し、学園祭には学習成果を英語で披露しています。
04 | 6月2日の佐賀学習センター開設20周年記念公開講演会では、來生新放送大学学長と佐賀大学の三ツ松誠先生に講演していた

いただきました。
05 | 今年は、「肥前さが幕末維新博覧会」をはじめ、佐賀県内各地で明治維新150年を記念したイベントが開催されています。



研究室だより

自然と環境コース／自然環境科学プログラム

たにぐち

よしあき

谷口 義明 教授

銀河の美しさに魅せられて 天文学に目覚める

PROFILE

北海道生まれ。放送大学教授。専門は観測的宇宙論。東北大学助教授、愛媛大学教授、同大学宇宙進化研究センター長などを経て現職。近著に『天の川が消える日』（日本評論社）。



宇宙年齢138億歳——。壮大かつ深遠な宇宙は、近年、望遠鏡の観測能力の向上に伴い驚くほど理解が進んでいます。そこで今回、銀河研究の第一人者である谷口義明教授に、天文学の魅力から、今こそ知りたい美しい銀河の謎までお話をお聞きしました。

天文学への誘い 美しいものをもっと知りたい

子供の頃、僕は昆虫少年だったんです。蝶もクワガタも見ていて美しいですからね、昆虫採集に夢中になってしまっ。ところが、中学生のある日、天文ファンの同級生が持っていた月刊誌「天文ガイド」をたま

たま見たことで、宇宙への興味が一気に芽生えていきました。アンドロメダ銀河やオリオン大星雲……。どうしてこんなに美しいものが宇宙にあるのだろうと、不思議な魅力にとりつかれてしまったのです。

それで、高校では天文部に入って観望会をしたり。大学も当初は法学部を志望していたのですが、美しいものへの憧れ、宇宙への好奇心が捨て切れずに、文系から理系へ転向。東北大学理学部に進学して、天文学を学ぶことになりました。

とはいえ、当時、1970年代から80年代頃は、宇宙の歴史はまだまだ正確に解明されていない時代で。天文学が学べる日本の大学も、全国に3校しかない。大学と大学

院を修了して天文学者になろうとしても、就職先がほとんどないというのが実情だったのです。そんな中、32歳のときに、奇跡的に職を得ることができました。

128億光年の彼方にある 未知なる銀河を発見

天文学者となってからは、「銀河の誕生と進化」を主に研究してきました。

1995年に、ESA（欧州宇宙機関）が、「赤外線宇宙天文台」を打ち上げたときは、日米の合同チームが作られ、僕がリーダーとなって、「ディープサーベイ（深宇宙探査）」を行いました。そのとき、長い露出時

間をかけて観測し、誰も見たことがない、いちばん遠方にある、生まれたての銀河を発見しようというプロジェクトに挑んだのです。

ところが、衛星打ち上げ後、感度が少し落ちていることが発覚し、4つの天域を探す計画から、すべての観測時間を1つの天域に投入せざるを得ない状況に追い込まれました。しかも、これは非常にリスクが高い戦略で、うまくいくかどうかは運次第。ESAの人たちからも「日本人はクレイジー！」とまで言われましたね。でも尻込みせず挑戦したら、結果は大成功。100億光年彼方の銀河を検出できたのです。

その後、今度は口径8メートル級の「すばる望遠鏡」を使って、さらに遠い天体の観測に挑戦しました。「すばる望遠鏡」の能力が非常に高く、2003年には、人類史上初、128億光年彼方の銀河を発見しました。つまり、128億年前の銀河の姿を見ることができたのです。

どうして過去の銀河の姿を見ることができるか——というと、光の速度が、秒速約30万キロメートルで有限だからなのです。1億光年離れた天体が放つ光は、1億年かけて地球に届く。だから、遠くの天体を観測することで、宇宙の歴史を調べることができるのです。現在、宇宙年齢は138億歳。ここ十数年の宇宙観測技術の進歩は著しく、今や134億年前の銀河まで観測されています。がんばれば、宇宙最初の銀河の姿も見られると思いますね。

ところで、宇宙には1兆個もの銀河がありますが、銀河の中心に超大質量ブラックホールがひそんでいて、ひときわピカピカ輝いている銀河があるんです。「メシエ

77」と呼ばれている渦巻銀河も、そのひとつで、見かけ上は普通の銀河なのに、中心核から強烈な光を出している。では、なぜ激しく光っているのか。この謎も、僕の長年の研究テーマのひとつでした。

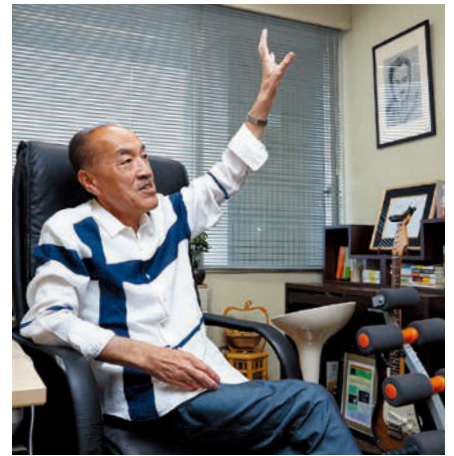
これはですね。周囲のガスが強い重力で引っ張られて、巨大ブラックホールの中に落ち込むことで、強力なエネルギーを放出して光っている。つまり重力発電をしているんですね。それにしても、なぜ効率的にガスがブラックホールに落ちるのが分からない。そこで僕は、巨大ブラックホールに他の銀河がのみ込まれて合体したため、重力発電が活発化した——という論文を約20年前に書いたんです。でも、銀河は孤立した存在で合体しないという説が強くてね。

しかし今回、大口径で超広視野の「すばる望遠鏡」を使って「メシエ77」を観測したところ、ようやく銀河が合体していた痕跡を発見することができました。その研究成果は、2017年秋に発表しました。

やはり銀河というのは、合体する運命にあるんです。重いものは2つあると引き合うので。じつはアンドロメダ銀河も、秒速100キロメートル以上で、私たちが住む天の川銀河に近づいてきているんですよ。このまま進むと、60億年後には、アンドロメダ銀河と天の川銀河が合体して巨大銀河になってしまう。詳しくは、僕の近著『天の川が消える日』で紹介しています。

好きこそ物の上手なれ 生涯教育としての天文学

さて、天文学に興味をもつ大人には2種



類あって。天文学をほとんど学ばずに大人になった人。また、天文学を学びたかったけれど、できなかった人。そういう2種類の方がおられると思うんですね。で、僕の授業は、どちらもウエルカムです。いろんな方がいていいんじゃないかな。授業では、僕の専門分野の観測的宇宙論に限らず、天文学全般について学べます。

また、僕のところに来てくれれば、ニーズに合った勉強場所や指導教官、さらに他の学科の先生まで、紹介することができます。ですから、何も心配することなく、まずは試していただきたいです。

やはり勉強の基本は、「好きこそ物の上手なれ」ですからね。天文学への好奇心がある方は、ぜひ学んでほしい。しかも放送大学の場合は入試がないですから。また大学院で論文を書こうと思う方は、好奇心に継続力と集中力をプラスして、ひらめき力を発揮していただければと思います。

僕自身も、宇宙という、まだまだ無知なる領域を、学生の皆さんと一緒に楽しみながら学んでいければと思っています。



研究室内の書棚には天文学書や教授の著作が多数。

Information

お知らせ

史上初、132億光年先の銀河で酸素を発見！

南米チリにある世界最大の電波望遠鏡であるアルマ望遠鏡を使って、132.8億光年彼方にある銀河で酸素を見つけたと、大阪産業大などの国際チームが発表しました。この研究成果は、イギリスの科学誌『ネイチャー』2018年5月16日号に掲載され、谷口教授も、研究チームの一員として、論文名を連ねています。くわしくはこちら <https://alma-telescope.jp/news/press/oxygen-201803>

2017年度 学位記授与式が行われました

2018年3月24日、2017年度学位記授与式がNHKホールにおいて、丹羽秀樹文部科学副大臣、奈良俊哉総務省大臣官房審議官をはじめとする来賓の方々のご臨席のもと挙行されました。

2017年度の卒業生・修了生(教養学部卒業生5,706名、大学院修士課程修了生322名、

大学院博士後期課程修了生8名)の卒業生総代・修了生総代に、來生学長から卒業証書・学位記が授与されました。

さらに学長表彰として、名誉学生の表彰、「優秀授業賞」の森 津太子教授、「教育功績賞」の大場 登教授の表彰が行われました。

最後に、宮野モモ子千葉学習センター所長の指揮による学歌斉唱で2017年度の学位記授与式は幕を閉じました。

学長式辞 学長 來生 新

皆さんご卒業、ご修了おめでとうございます。本日ここに、学士の学位を取得された方々、修士の学位を取得された方々、博士の学位を取得された方々と、ともに卒業・修了の喜びを分かち合うことができるのは、放送大学のすべての教職員にとってこの上のない幸せです。また、本日は文部科学副大臣丹羽秀樹様をはじめとして、日ごろから放送大学にご支援をいただいている、各界からのご来賓の皆様のご臨席を得て、放送大学の卒業・修了の式典を挙行できますことは、まことにありがたく、名誉なことであり、ご来賓の皆様に深く感謝申し上げます。さらに、本日学位を取得されるすべての方々を、長い年月にわたり支えて来られた、ご家族、関係者の皆様のお喜

びもさぞ大きなものでありましょ。これまでのご苦勞に対し、放送大学教職員一同に代わりまして、御礼と感謝とお慶びを申し上げます。

本日は、放送大学の学長として、常日頃から「生涯学習」について考えていることの一部をご披露し、卒業・修了の喜びを迎えられた皆様へのはなむけの言葉にしたいと考えます。このところ人生100年時代という言葉が世上に流布しております。織田信長が桶狭間の戦いに際して諷い、舞ったことで知られる幸若舞、「敦盛」の中の「人間50年、下天の内を比べれば、夢幻(ゆめまぼろし)の如くなり」という一節は、源平合戦での一の谷の戦いにおいて、心ならずも平敦盛を打ち取った熊谷直実の人生の無常觀を諷ったものです。幸若舞の「敦盛」の記録の初出は1567年で、室町

時代には大変に流行したものであったと言われます。

ちなみに、私が生まれた昭和22年の男性の平均寿命は50.06歳、女性は53.96歳でした。こうして見ると、室町から戦国時代にかけて人生50年と諷われた人間の持ち時間の感覚は、500年近く後の終戦直後まで、日本人の実感であったことに、改めて驚きを覚えます。

これに対して、2016年の男女それぞれの平均寿命が、80.98歳と87.14歳ですから、戦後70年というきわめて短い間に、日本人の人生の長さの実感がほぼ倍になった、ということでもあります。このような生きる時間の長さの急激な変化を前に、私たちはいかに生くべきか、いかにすれば充実した生涯を送りうるかが、すべての人にとっての重大な関心事になり、生涯学習が



その解となるかが、私たちにいま問われている、ということになります。世界的ベストセラーになった、『サピエンス全史—文明の構造と人類の幸福』という本があります。数年前から30か国を超える国々で翻訳されていますので、皆さんの中にお読みになった方が相当数いらっしゃると思います。著者はイスラエルの歴史家、ユヴァル・ノア・ハラリで、大変に興味深く、巧みにマクロの人類史を叙述する中で、ハラリは今から約500年前に始まった「科学革命」を、人類だけではなく、地球上のすべての生物の運命を変えることになった大革命だととらえます。ハラリによれば、それ以前は、おおよそ人の知るべきことは、すべて神や賢者によって知られている、と人類は確信しており、人は人類に「未知の領域」があるとは考えていなかった。そのような前提からは、「進歩」という概念は生まれず、「科学革命」が人類に「自らの未知を自覚」させ、それをきっかけに人類はどん欲に知識を求め、その費用を賄うために資本主義と帝国主義を活用した、ということでもあります。

これを生涯学習の問題として考えてみましょう。己にとっての「未知あるいは無知」の領域が存在することの自覚を持つところこそが、各個人を進歩に向かわせる原動力です。人生の若い時代に、自らの内にあ



る、未知や無知について強い自覚を持つことは自然で、それが学ぶこと、知ることによって人を駆り立てます。しかし、それぞれの人生で、人は自らの選んだ生き方において経験を積み、成熟していきます。その過程で、人が、徐々に、自らの内にある未知や無知に対する鋭い自覚を、失う可能性が生じます。経験を積むことによって、人は過去の行動の記憶を用いて、新たな行動の結果について、高い確率で予測できるようになり、それによって致命的な失敗を回避する確率を高めます。その意味で、成熟とともに、未知や無知の自覚が乏しくなるのは、一般的には、当然のことなのかもしれません。

しかし、私たちは、そのような成功が、「未知や無知の領域」の存在に対する鋭い自覚の喪失という、コストの支払いなしには達成できないことを、忘れてはなりません。より感覚的に言えば、ハラハラしたり、ドキドキしたりしながら、なおかつチャレンジすることの喜びを、私たちは年を経て成熟し、熟練することの代償として、日々失いつつあるのです。このような観点からは、生涯にわたって学習を続けるという生き方は、年齢に関係なく、自らの



内にある未知や無知の領域に対する鋭い自覚を保ち、その克服によって進歩する喜びを持ち続けるという、意思的で強い生き方に他なりません。

それは人が100年の時を生きる21世紀の世界において、もっとも美しい生き方の一つである、と私は考えます。皆さんが今日の良き日に満足せず、さらなる未知への旅を続けられることを願って、1942年11月に、ウィンストン・チャーチルが、アフリカ戦線で敗戦を続けていたイギリス軍が初めてロンメルを破り、勝利を得たことをイギリス議会で報告した時に述べた言葉、“Now this is not the end, it is not even the beginning of the end, but it is perhaps the end of the beginning.”を贈ります。

皆さん、今日の良き日は「始まりの終わりに過ぎない」ことを十分に認識してください。皆さんの生涯をかけてのよき追究の旅に、bon voyageと申し上げて私の式辞を終わります。

2017年度 名誉学生 (学生表彰)

名誉学生とは、教養学部の全てのコース(又は専攻)を修了した者で、かつ、人物、学習態度が良好である者に対し与えられる称号です。



名誉学生一覧

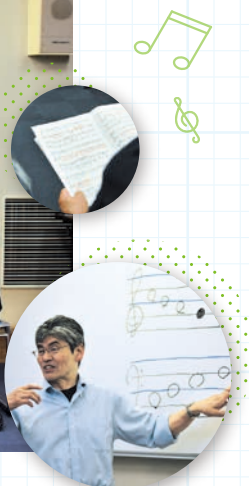
麻場 キミ子さん
 蘆田 智明さん
 荒井 芳宏さん
 石井 一朗さん
 石角 幸枝さん
 石野 みどりさん
 仰木 豊さん
 大西 政敏さん
 大野 孝弘さん
 岡里 順子さん
 小汀 政徳さん

寛 恭治さん
 加治原 二仁さん
 梶本 武邦さん
 川崎 馨さん
 神田 剣一さん
 木谷 早苗さん
 倉元 正さん
 栗林 善次郎さん
 桑原 昭夫さん
 後藤 マリ子さん
 駒井 俊仁さん
 古本 教子さん

坂口 計夫さん
 澤崎 慎一さん
 塩谷 益美さん
 穴戸 修一さん
 鈴木 誠さん
 高橋 照夫さん
 田中 修さん
 玉城 俊博さん
 寺村 紀美夫さん
 中島 茂子さん
 中島 龍成さん
 西田 みち子さん

橋本 直哉さん
 長谷川 厚子さん
 堀口 貴恵子さん
 松本 隆興さん
 村上 勝一郎さん
 森 勇造さん
 森高 美智子さん
 山崎 和秀さん
 山中 浩司さん

50音順
 掲載許可を得られた方のみ



学習センターサークル紹介 | 千葉学習センター

合唱サークル

今回は千葉学習センターへお伺いしました。宮野所長のご専門であり、音楽が活発な千葉学習センター。その中でも代表的なサークルが合唱サークルです。

取材日は雨の日にもかかわらず、朝から多くのメンバーの皆さんが集まりました。講師の田中安茂先生のご指導のもと練習を開始。基礎的な発声練習からはじまり、実際に曲を歌います。合唱になじみのない者から見ると、意外なほど練習には身体の動きが入ります。田中先生による、よりよい声を出すための工夫だそうです。またメンバーが手をつない

で歌うなど、合唱という表現が持つ力を発揮するための練習に、メンバーが一丸となって取り組む姿勢が印象に残りました。そんな皆さんに「この歌はだいぶよくなりましたね」と声をかけられる田中先生。快活な先生のご指導もあり、想像していた以上にアクティブな印象を受けました。

「合唱は学生の時の経験しかありませんが、サークルを見てやってみたくなりました。」と、サークルに入ったきっかけを話してくれたのは、代表の金子さん。入ってみて感じた合唱サークルについて聞いてみました。「社会人になってから合唱とは無縁でしたが、やってみると歌が生活にあるのは楽しいし、合唱の奥深さに触れることで充実感を覚えます。」また、副代表の佐藤さんは、「みんなと同じ空間を共有して音を出す、そ



ういう形で人と関わっていく、そこに音楽の喜びに加えた新たな発見があります。」と語ってくれました。

合唱サークルは、学習センターの公開講演会や秋祭りへの参加、さらに今年初めての定期演奏会を9月に開催する予定です。そのため月に2回の講師の先生のご指導に加え、自主練習も活発に行っているとのこと。メンバーは随時募集中です。ご興味のある方はお気軽に千葉学習センターへお問い合わせください。



音楽サークルが充実しています！

千葉学習センターでは合唱サークルの他に軽音楽サークルも活動しています。くわしい活動内容等は千葉学習センターまでお問合せください。



幕張と放大への思い

このたび宮本みち子先生の後を承けて教務全般を、そして国際交流等を担当させていただきますことになりました。思い起こせば下町の腕白坊主時代、潮干狩りのたびに訪れていたのが幕張の遠浅の海でした。それから四半世紀後、かつて仲間と競争で必死にアサリを掘っていたあたりの埋立地に建てられた放送大学に助教として赴任いたしました。現在はそれからさらに30年が過ぎたこととなります。

今、日本の高等教育は大きく動いています。その一翼を担う通信制大学も大きな変動期に差し掛かっています。もちろん、本学もその例外ではありません。かつては通学制大学の代替機関とみなされていた通信

制大学でしたが、今やその通信という特性を生かしたより積極的な教育活動の展開を期待されるようになってきました。その背景には、成人学習を志す皆さんの特性や期待がますます多様化し拡大しているという現実、そして学習に利用することのできるメディアが著しく進歩しているという現実があります。そうした環境の変化は、本学の教育をより充実したものとしていく好条件であると同時に、参入してくる多くの機関との競争が避けられなくなる要因ともなっています。「学びやすく、安価で、しかも質の高い大学」という社会的評価を過去の神話としないためにも、本学教学の実効ある改革を目指したいと思っています。



いわなが まさや
岩永 雅也 副学長

2018年4月に就任された教員



家族社会学
家族福祉政策

しもえびす みゆき
下夷 美幸 教授


生活と福祉コース
生活健康科学プログラム



臨床看護学
臨床アセスメント学

やまうち とよあき
山内 豊明 教授

生活と福祉コース
生活健康科学プログラム




オペレーションズ・マネジメント
サプライチェーン・マネジメント

まつい よしき
松井 美樹 教授

社会と産業コース
社会経営科学プログラム

社会経済学



まつばら りゅういちろう
松原 隆一郎 教授

社会と産業コース
社会経営科学プログラム

国際政治学
日本政治外交史



しらとり じゅんいちろう
白鳥 潤一郎 准教授

社会と産業コース
社会経営科学プログラム

文化人類学
極北人類学



おおむら けいいち
大村 敬一 教授

人間と文化コース
人文学プログラム

西洋中世史



かわはら あつし
河原 温 教授

人間と文化コース
人文学プログラム

アメリカ文学
カルチュラル・スタディーズ



みやもと よういちろう
宮本 陽一郎 教授

人間と文化コース
人文学プログラム

デザイン学
情報デザイン



ふしみ きよか
伏見 清香 教授

情報コース
情報学プログラム

昇任教授のお知らせ

2018年4月1日付にて、教授に昇任しましたのでお知らせいたします。



あさい きくお
浅井 紀久夫 教授

情報コース
情報学プログラム



やすいけ ともかず
安池 智一 教授

自然と環境コース
自然環境科学プログラム

教務課

学生論文集「Open Forum 第14号」発行

刊行されて以来、反響をいただいているOpen Forum。このたび第14号を発行しました。本書は、2016年度の大学院修士課程修了生の修士論文を基にした学生論文集です。

放送大学大学院の学生たちは、どのような環境で、目標を立てて学んでいるのか？ どのような形で教員の指導が行われているのか？ 学生の研究成果は？ — Open Forumはこのような疑問に具体的にお答えする冊子です。各学習センターで閲覧できますので、ご興味のある方、修士課程への進学をお考えの方は、ぜひ手にとってご覧ください。また、各学習センター・本部(郵送のみ)においても販売を行っています。

https://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/open_forum.html



企画管理課

関東地域の地上波放送が終了します

放送大学では、2018年10月からBS放送へ完全移行し、関東地域で実施している地上波(テレビ(12ch)、FMラジオ(77.1MHz/78.8MHz))による放送については、本年9月末(1学期末)をもって終了いたします。

また、一部のケーブルテレビにおいても、9月末をもって視聴できなくなる場合があります。今後も放送大学のチャンネルをご覧いただけるかどうかにつきましては、加入されているケーブルテレビ事業者にご確認ください。

放送授業の地上波放送(TV・FM)からBS放送への完全移行についてのQ & Aはこちら ▶ https://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/2016/280527_1.html

ON AIR はインターネットでもご覧いただけます
<https://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/onair.html>



編集後記

ON AIRは、今号から学生への個別配送を終了するとともに内容を刷新し、インターネット活用による閲覧方法に変わりました。冊子版は各学習センターにあります。パソコン等の端末がネットにつながっている方は、いつでも自在にON AIRを読むことができるようになりました。それも、当該サイトでは、最新号だ

けでなく、2001年12月に発行された64号から今号までのPDFをご覧いただけますし、21世紀に入ってからの放送大学の歴史を振り返ることができます。さらには、各号の最後に掲載されている「編集後記」を連続して読んでみることで、それぞれの時代の思潮を感じ取っていただくと確信しています。(編集委員・大曾根寛)

学内広報委員会(2018年度)

委員長	教授	山田 知子
委員	教授	大曾根 寛
	教授	苑 復傑
	教授	原田 順子
	教授	島内 裕子
	教授	辰己 丈夫
	教授	石崎 克也
オブザーバー	副学長	池田 龍彦
編集事務担当		総務部広報課

ご意見や感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp